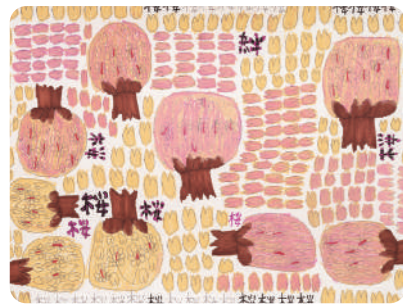


REPORT 開催講座・展覧会レポート

🏠 展覧会 🎨 ワークショップ 🗣️ 講座



アートで感じる、満開の春。

🏠【企画展】アトリアで、春

日時：3月9日(土)～3月24日(日)

地域ゆかりの作家の、春をテーマにした作品を展示しました。伝統工芸の染めや蒔絵、根付、また絵画や書、インスタレーションなど幅広いジャンルのアート作品から、心地よい春を感じることができました。



木炭を使った本格的なデッサン

🗣️アトリアの美術講座「静物デッサン」

日時：4月18日(木)、4月20日(土)

講師：岩田 史朗さん

市在住の洋画家 岩田史朗さんによる静物デッサンの講座と、古代ギリシャ美術に関する講義を開催しました。ワインボトルと果物をモチーフに、全体を塊で捉えて描くことを学び、前回の同講座からレベルアップした内容でした。



🗣️アトリアの美術講座「水墨画で龍を描く～日本画を体験してみよう～」

日時：4月21日(日) 講師：黒澤 正さん

市在住の日本画家 黒澤正さんによる墨流しなど水墨画技法の体験講座を開催しました。扇形の紙に、水と墨から生まれる模様の偶然性を楽しみながら龍などを描き、F8号の色紙に貼って作品を完成させました。講座の最後には、それぞれの作品を鑑賞し合いました。

模様を活かして描いてみよう



🎨アトリアのガラスに絵を描こう

日時：4月27日(土)～5月6日(月)

講師：AKIYOさん

公園に面したアトリアの広いガラスに、水で落とせるクレヨンで絵を描くワークショップを開催しました。講師のAKIYOさんがあらかじめ描いたさまざまな動物たちが住む森に、参加者が自由に絵を描いてにぎやかな空間を完成させました。

大きなガラスにのびのびお絵かき!



カタチや動きをとらえてみよう

🗣️色々な色彩で描こう 水彩クロッキー

日時：5月3日(金) 講師：村山 之都さん

市在住の画家 村山之都さんを講師に招き、人物モデルを水彩クロッキー(早書き)で描く講座を開催しました。午前中は村山さんによる実演。午後は、参加者が制作を行いました。



展覧会・イベントの最新情報のほか、会期中のようすや過去のイベントレポートなども随時更新。アトリアの雰囲気ぜひ覗いてみてください！



Instagram [ID: @art_gallery_atlia]



X (旧 Twitter) [ID: @artatlia]



Facebook

川口市立アートギャラリー・アトリア

〒332-0033 埼玉県川口市並木元町 1-76
 [開館時間] 10:00-18:00 (最終入館 17:30)
 [休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、施設整備期間
 [TEL] 048-253-0222 [FAX] 048-240-0525
 [Mail] info@atlia.jp

https://atlia.jp/



駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。
 JR 川口駅(京浜東北線)東口より徒歩約 8分

編集後記

リニューアルしたアトリアニュース、いかがでしたでしょうか？今年はずいぶん、アトリアでアートに触れる夏をお過ごしください。「こんな夏休みイベントがあったらいいな！」など、みなさんのアイデアもお聞かせください。

ATLIA NEWS for TEENS
 編集：岡村春香、武井智子、満口亜紗、宮澤和氣
 デザイン：MO BETTER DESIGN
 発行日：2024年7月1日

川口市立アートギャラリー・アトリアから、10代のみなさまに向けた広報誌



Vol. 4 (2024.7)



こんにちは。夏本番を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

ATLIA NEWS for TEENS は、今号からデザインをリニューアル。気持ちも新たに、アトリアの様々な情報をお届けします。

7月はデザイナーグループ「AIUEO」による、公共の美術施設では初めてとなる展覧会を開催します。思わず心がワクワクする、カラフルでかわいい作品がアトリア全体を彩ります。

8月には吉田有紀さんの個展を開催。日本画の素材を使った新しい表現などを追求している吉田さん。今号のアーティストインタビューでは、作品や制作について特集しています。

この夏は楽しく学べる展覧会やイベントが盛りだくさんです。夏休みはぜひ、アトリアへ足を運んでくださいね！



吉田有紀
「CLONE クローン」

EVENT アトリアの今後のイベント



1. 第41回川口市小・中・高校硬筆展覧会

日時：7月3日(水)～7月7日(日)

2. AIUEO Exhibition「KURU・PIKA・WAKU」

アイウエオエキシビジョンクル・ピカ・ワク

日時：7月20日(土)～8月18日(日)

オノマトベを使ったイラストや、鑑賞者が遊び感覚で楽しめるあわせ絵、謎解き感覚で見る絵しりとりなどを展示します。

3. 吉田有紀展 光の像 -おもちゃカラー-

日時：8月22日(木)～9月1日(日)

現代美術家の吉田有紀さんの個展を開催します。会期中は作家によるギャラリートークもあります。

4. 令和6年度(第32回)水道ポスターコンクール展示会

日時：9月3日(火)～9月8日(日)



1. Sui Sui ワークショップ!

コラージュでつくるシーパラダイス

(※AIUEO Exhibition「KURU・PIKA・WAKU」関連イベント)

日時：7月26日(金)～7月28日(日)

講師：AIUEO デザイナー KAORIN・AKIYO・NONO

アトリアのスタジオに海が出現！アクリル絵の具とコラージュ技法で海の生き物を作り、会場に飾り付けましょう。

SCHEDULE 年間スケジュール

7月	3(水)～7(日) 第41回 川口市小・中・高校硬筆展覧会 20(土)～8/18(日) AIUEO Exhibition「KURU・PIKA・WAKU」 21日(日) RUNRUN トークイベント！「AIUEO」のデザインとイラストレーション 26(金)～28(日) Sui Sui ワークショップ！コラージュでつくるシーパラダイス
8月	24(土) 吉田有紀展 トークイベント 31(土) アート&ミュージック(吉田有紀展関連イベント)
9月	3(火)～8(日) 令和6年度(第32回)水道ポスターコンクール展示会
10月	12(土)～11月4日(月祝) 旧田中家住宅 -川口の商家の贅と茶の文化-(仮)
12月	4(水)～8(日) 第57回 川口市特別支援学級合同作品展
1月	第18回 アートな年賀状展 25(土)～2/2(日) 中学生のART CLUB 作品展
2月	6(木)～11(火) 川口市小・中・高校書きぞめ展覧会 15(土)～24(月祝) 川口の園工美術まなび展
3月	常設展示(川口市所蔵作品より)

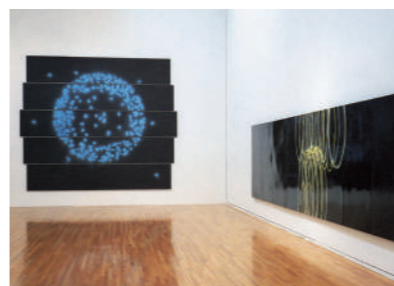
※詳細はアトリアHPや広報かわぐちをご確認ください。予定は2024年6月時点のものです。事情により変更する場合があります。



美術以上でも
美術以下でもない
美術にしか
見えないものを

吉田有紀

Y O S H I D A Y u k i



左と中央)「MOT アニュアル 2006 No Border『日本画』から／『日本画』へ」(東京都現代美術館／2006年)展示風景
右)AOMORI GOKAN アートフェス 2024「かさなりとまじわり」(青森県立美術館／2024年)展示風景

独特な抽象表現が高く評価されている現代美術家の吉田有紀さん。

30年にわたるキャリアの中で様々な表現を行い、国内外のホテルなどのパブリックアートも多く手がけています。青森県立美術館で現在開催中の「かさなりとまじわり」展にも、吉田さんの作品が展示されています。

両親とも美術家という環境で育った吉田さん。

お父さまの吉田克朗さんは深谷市で生まれ育った埼玉県にもゆかりのある方です。

アトリアでは8月22日から9月1日まで、吉田さんの個展を開催します。

どんな想いで制作に取り組んでいるのか、吉田さんにお話を伺いました。

哲学的なものを思考することがアート

「おもちゃカラー」というポップなタイトルの作品は、赤、青、黄、白の五角形の木片が組み合わせられていて、アニメ「機動戦士ガンダム」に出てくるガンダムの機体の配色を思い起こさせますね。

吉田 五角形や六角形という形は、線を引けば立体にも見え、何個か組み合わせると集合体としての広がりも出しやすいので、5年ほど前から自分の作品に多く用いています。

また、ガンダムを作品のテーマにしたのは、自分がもともと好きだったということもありますが、誰もが認識しているガンダムの赤、青、黄、白という配色が、実は原作者の富野由悠季さんの意に反していたということを知ったのがきっかけでした。富野さんは、本当はガンダムを真っ白にしたかったらしいのですが、「子どもが認識しやすい色にしてグッズが多く売れるようにしたい」というおもちゃ会社からの意見で、その配色になったそうです。社会に浸透しているものでも、その裏には大人の事情が隠されているということを暗に含ませています。

吉田さんが作品を作る上で大切にしていることは、どんなことですか。

左から「ブラックホール」「おもちゃカラー G」「おもちゃカラー ZI」(全て2020年制作)

吉田 まずは自分の体験したことや体感したものを頭の中で整理します。感情は出来る限り排除して、一般的な概念として、形や色に置き換えながら作品にしていきます。

抽象的なアートは難しいと思う人は多いでしょうが、僕の作品に触れることで、哲学的に考えるきっかけになればいいなど。作品を見てまずは「何だろう?」と思ってもらい、それから作品の背景を知ってもらう。作品を前にした人がどのように感じるか、その交感がアートだと思い、作品を制作しています。

美術家の両親のもとで生まれ育つ

吉田さんのご両親は美術家ですが、吉田さんご自身も小さい頃から美術が好きだったのですか。

吉田 特に美術が好きだったとか、絵が得意だったということではなく、どちらかというと宇宙や異次元といった世界に興味がありました。ガンダムもそのひとつです。とはいえ、家に画集がたくさんあったので、ゴッホやルノワールといった有名な画家の作品に触れる前に、アメリカの抽象表現主義のフランク・ステラやリチャード・セラの画集を見て「これはいったい何なんだ」とも思っていました。

ご両親以外の美術家の方との交流もあったのでしょうか。

吉田 父と一緒に美術活動をしていた関根伸夫さんから作家との共同のアトリエが伊豆にあったのですが、夏休みにはよくそのアトリエに遊びに行っていました。それぞれの作家の子供たちも来ていて、制作の合間に、父親たちが交代で海水浴や虫取りに連れて行ってくれた思い出があります。

父とは比較されない道を進む

自分もアートの道へ進もうと決めたのはいつ頃だったのでしょうか。

吉田 高校生の初めの頃は、車やバイクなどのプロダクトデザ

インの仕事をしたと思っていましたが、のちに日本の会社ではデザインは共同でやるものとなり、ちょっと違うかなと思い始めました。当時は友人たちとバンドをやっていたのですが、共同作業の難しさを感じていたんですね。自分は一人で制作するほうがいいな、そうしたらファインアートだなと思って、多摩美術大学に進み、日本画を専攻しました。

なぜ日本画を選んだのですか?

吉田 油画を専攻したら、自分は一生、父と比較されるなど思い選択肢から外しました。彫刻か日本画で迷っていたのですが、当時日本橋三越で開催されていた「日本画百選」という展示で出合った、徳岡神泉の「仔鹿」や川端龍子の「水雷神」という作品にとっても感動して、「日本画にしよう」と決めました。花鳥風月や人物をモチーフにした作品が並ぶ中、その二つの作品だけは異彩を放っていたんです。具象なのですがとてもコンセプチュアルで、こういう表現の精神がある限り絵はなくなると今でも思っています。

日本画の新基軸を追求

一「日本画絵の具が泣いてるよ」

吉田さんの作品は、日本画の手法を取り入れながらも、吉田さんにしか表現できないものとなっています。このような作品を作るようになったきっかけはあったのでしょうか

吉田 大学3年生の頃からだんだんと日本画独特のルールに縛られるのがつくなり、自分の好きなおりに描けないというジレンマに陥りました。また、アルバイトで村上隆さんをはじめとする現代美術家の制作の手伝いもしていて、自分も自由に制作していきたいなど。だとしたら、人と同じことはできない。とはいえ日本画は世界の他の国のどこにもないものだから、日本画の手法を踏襲した新機軸の表現をできないかと真剣に考えるようになりました。

それが、《Groove Line》に代表されるシリーズ、日本画の画材に樹脂を塗って、独特の質感を出す作品につながったんですね。

吉田 はい。日本画で使う絵の具は、乾くと彩度が落ちるので、描いたばかりの濡れている状態をなんとか保てないかと考えました。色々な素材で実験しましたが、樹脂を使用することで、例えば黒はぐっと暗い闇のように感じられるような色合いに仕上がったのです。

できた時はとても手応えがあり、自信满满で大学の講評会に作

品を提出しました。ただ、当時の日本画の教授には、「日本画絵の具が泣いてるよ」と酷評されてしまいました……。しかしながら、この一連のシリーズが1996年、国際的なコンクールであるフィリップ・モリス・アート・アワードで入選し、その後、東京都現代美術館で開催された展覧会「MOT アニュアル 2006 No Border『日本画』から／『日本画』へ」での出展につながるなど、高く評価されていきます。

最後に、子供達に向けて、アートとの関わり方など、何か伝えたいことはありますか。

吉田 アートに関係はなくても、観察する力を養うことは大切だと思います。見たいものだけではなく、見たくないもの、自分にかかわりがなさそうなことでも、客観的に捉える。そうした様々な事象からどれだけ情報を得られるか、背後にあるものを感じられるか。幅広い好奇心と観察の仕方によって、色々なことを発見できたり、考える幅が広がったりして、自分の深い部分と世界が繋がっていくのだと思います。

アトリアでの展覧会も楽しみにしています。ありがとうございました。

(取材 岡村春香)

展覧会情報 (2024年)

8月22日～9月1日
吉田有紀展 光の像 -おもちゃカラー-
(川口市立アートギャラリー・アトリア)

開催中～9月29日
AOMORI GOKAN アートフェス 2024「かさなりとまじわり」
(青森県立美術館)

7月13日～9月23日
吉田克朗展 -ものに、風景に、世界に触れる-
(埼玉県立近代美術館)

Profile

- 1971 神奈川県生まれ
- 1995 多摩美術大学 美術学部 絵画学科 日本画専攻 卒業
- 1997 多摩美術大学大学院 美術研究科 絵画専攻 日本画領域 修了
- 2000 五島記念文化財団海外研修員としてロンドンに滞在 (-2001)
- 主な受賞歴・展覧会
- 1996 「フィリップ・モリス・アート・アワード 1996」(東京クエストホール)
- 2000 第11回五島記念文化財団 新人賞 (研修先ロンドン UCL Slade School of Fine Art)
- 2006 「MOT アニュアル 2006 No Border『日本画』から／『日本画』へ」(東京都現代美術館)
- 2010 個展「異形一景」(カサヤの森現代美術館)
- 2011 「Gateway Japan」(Torrance Art Museum)
- 「META II 展 震災復興支援展」(アーツ千代田 3331)
- 2020 個展「カオスとコスモス」(フェイアートミュージアムヨコハマ)
- 手がけた主なパブリックアート
- 黒部電気株式会社、丸の内ホテル、静岡センチュリーホテル、ハウス食品株式会社、パレスホテル東京、星野リゾート軽井沢、フォーシーズンズホテル上海、フォーシーズンズホテル北京